

富山県内水面漁場管理委員会議事録

1 開催の日時及び場所

日時 令和3年1月26日(火) 午後1時30分から午後2時30分
場所 森林水産会館 33号室

2 出席委員

田中篤人、笠井廣志、中田眞一郎、藤田信弥、堀井律子、中田礼子、山本勝徳
角眞光彦(欠席委員:なし)

3 議長

富山県内水面漁場管理委員会 会長 田中篤人

4 委員会の成立

定員の過半数の委員が出席していることから、漁業法第145条第1項及び第173条の規定に基づき、当委員会は成立。

5 議事録署名委員の指名

中田眞一郎、角眞光彦

6 水産漁港課職員

矢野課長、前田課長補佐、加藤主任

7 事務局職員

渡辺事務局長

8 付議事項(議題)

(1) 内水面漁場管理委員会の概要について

事務局から資料1および内水面釣り場のしおり(富山県内水漁連)により、富山県内の各漁場、漁業権者、漁業調整規則、委員会の機能と権限などについて説明があった。

・田中会長から、漁業法、漁業調整規則が改正されたということであるが、本県に影響のある大きな改正、変更点はあったか、という質問があり、事務局から、漁業法の改正に合わせて、調整規則等を見直したものであるが、変更点は少なく、本県にとって大きく影響する改正等はなかった、と回答があった。

この他に、質問、意見等はなかった。

(2) 「神通川水系熊野川における水産動物採捕制限の委員会指示」(協議)

県(水産漁港課)から資料2-1により、説明があった。

・委員から質問、意見等はなく、事務局より資料2-2の委員会指示案が示され、採決の結果、異議なしとされ、委員会指示を発出することが議決された。

(3) 秋サケの来遊実績について

資料3に基づき、県から説明があった。令和2年度のサケ河川捕獲尾数は平成に入ってから最低レベルとなった令和元年度を上回ったが、平年の48%と少なかったことが報告された。また、本年度のサケ稚魚の放流見込み数についても報告があった。

・藤田委員から、初めての委員の方もおられるので、これまでの本県のサケの回帰率や回帰尾数などについて紹介しては如何か、という提案があり、事務局から、平成29年度を例に回帰率や海面での漁獲数量、河川での親魚捕獲数量が報告され、近年の回帰率0.1~0.3%程度を勘案すると、本県の1,500万尾の稚魚放流に対して、帰ってくるサケの数は、1万5千尾から4万5千尾が見込まれる、と説明があった。

(4) その他

事務局より、委員会の親睦会の概要について説明があった。

前期(第20期委員会)からの親睦会費の繰越金があるため、当面委員からの会費の徴収はしないことで、了解を得た。

(5) 次回の委員会の日程について

次回委員会を、令和3年2月24日(水)13時30分から開催することを申し合わせ、散会した。

以上のとおり、相違ないことを証するため署名する。

令和3年1月26日

議長

署名委員

署名委員
